

## 世田谷村日記

石山修武

九月三日

Kさんに二時間弱車で送っていただいた。Kさんは十九才になる障害を持つ子供さんを持つ。だから車はBOXカー、それを改装して自分の運転席の隣に寝たきりの子供の頭が位置するようにしている。今日はその子の姿は無かったが、この車の室内の風景は圧倒的なリアリティーがあつた。Kさんは生まれながらの障害児を産んだ時絶望の淵に沈み切つたというのを前に聞いた事がある。Kさんは今四十六才。そんな絶望を乗り越えて、実に他人に親切に、献身的な生き方の筋を通して思うように思う。Kさんには敵わないな。夕方世田谷村に戻り「開放系技術論ノート」を書く。思いがけずはかどつた。

九月四日 日曜日

あと十五年何とか生き生きとやってみたいが、その為に何を土台に据えねばならないか。十五時研究室打合わせ。

九月六日

昨日は午前中北京Pミーティング。夕方より丸の内でミーティング。二十二時迄。本日は十三時半広島大学学生来室。好青年であつた。石山研ゼミ。学生と久し振りに接する。学生というのは時々しか会わぬと、その成長振りに新鮮に驚く。ところがいわゆる先生は、それが無い。いわゆる先生である私は、誰かからそんな忠告を受けたが、その言を意識しながら話しを聞いてみたが、

やっぱり俺は鈍いのか、あんまり変わっていないとしか思えなかつた。十七時S氏来室。北京P、出版事業の件。李祖原より連絡あり。二〇日過にファイナルスケジュール確定との事。